

1 派遣期日 平成28年10月14日（金）～10月15日（土）

2 研修先 学校名（会場名） 横浜国立大学大学教育人間科学部附属鎌倉小学校
所在地 神奈川県鎌倉市雪の下3-5-10
<http://www.kamakerasho.ynu.ac.jp/>

3 研修内容

(1) 研究主題「自立に向かう子」

研究主題に迫るため、学びにおける3つのプロセスをへるものだと考えて研究を進めている。

「3つの学びのプロセス」とは

- ① 自立的な学びのプロセス・・・（自分で）問題を見つける
- ② 対話的な学びのプロセス・・・（他者と）かかわり自分の考えを確立する。
- ③ 深い学びのプロセス・・・（学習したことを）日常の生活の場面で活用する。

各教科の特性によって「3つの学びのプロセス」の捉え方は異なる。しかし、意図している内容は同じである。表現は異なるが、「3つの学びのプロセス」は共通認識のもと各教科で独自に設定している。また、「3つの学びのプロセス」は維持しながらも、毎年テーマを設定して取り組んでいる。



理科

- ① 自立的な学びのプロセス → 科学的探究心を持ち、身の回りの自然現象から問題を発見する。
- ② 対話的な学びのプロセス → 自己と他者の考えを比較し、考えを変容させたり、補強したりする。
- ③ 深い学びのプロセス → 獲得した科学的概念を用いて、身の回りの自然事象を考えようとする。

平成28年度のテーマ

体育：他者とともにのり込む体育授業
算数：問いにつながる算数学習

国語：言葉をとおして高め合おう
音楽：違いを見付け価値を見出す子

(2) 児童の姿とらえ方

学びにおける3つのプロセス以外にも「自立に向かう子」についての具体的な児童の姿が明記されている。
つまりゴールデザインである。

現在の児童の姿



3つの学びのプロセス



願う子どもの姿

それぞれのプロセスごとに
児童の姿が明記されている

I 日常生活に関連させた学習材との「出会いの場面」において、自由試行していく中で発見をしていき、問題をつくっていく。

II 友だちの試した方法やそれに対する考え方を聴き合い、自分でも試してみたり、それについて考えたりしていく。

III データをグラフ化し、そこからきまりを見つけることができるようにしていく。

3つの学びのプロセス（理科の例）

(3) 学習指導案

横浜国立大学附属鎌倉小学校では、一般的に学習指導案をデザインシートと呼んでおり、どの教科も3ページに統一されており、この中に研究のエキスがつまっている。

単元の指導

- ①教科のテーマと3つの学びのプロセス
- ②子どもの姿
- ③これからの社会に必要な力
- ④ストーリーデザインと学びのプロセス
- ⑤願う子どもの姿

本時の指導

- ①本時の子どものゴールイメージ
- ②ストーリーデザインと学びのプロセス

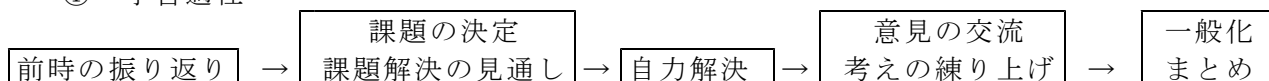


理科のデザインシート（3ページ） 単元名「じしゃくの力」

(3) 授業の実際

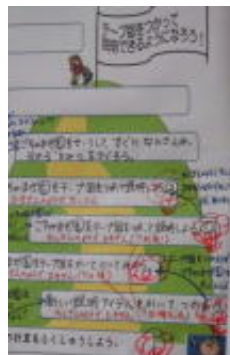
どの学級も学習過程や学習環境が同じように行われていた。前時の振り返りから学習課題を子どもたちと一緒につくっていた。単元のゴールイメージが掲示されているため、自分が今どのくらいまでできているのか、単元の目標を達成するためには何が必要かが把握しやすい。また、前時までの板書が教室に掲示してあるので、単元の振り返りがいつでもできる。

① 学習過程



② 学習環境

- ・前時の板書を印刷したもの



- ・単元のゴールイメージと本時のつながり

(4) 小中合同授業 ①小6と中2の音楽「合唱」

②小5と中1の外国語活動・英語科

新しい試みとして、小中合同授業が実施された。小5と中1の外国語活動・英語科の授業を参観した。中学校の先生がT1，小学校の先生がT2になって指導していた。中学生が英語で質問しながら小学生から情報を聞き出してメッセージカードをつくっていた。



4 感想

「児童にどんな力をつけさせたいか。」「児童がどんな姿ならねらいが達成されたのか。」という視点を踏まえ、目指す児童像が具体的で、単元のゴールイメージから本時の授業が組み立てられていたのがすばらしかった。だから本時ではどこまで達成できればよいということがより明確であった。また、ストーリーという形でどのように本時の授業や単元がどう流れていくのかが分かり、1時間単位が連続性がある。その中心にあるのが指導案である。この指導案一つとっても、名称を変えるだけで、授業に対する考え方も変わるのがよく分かった。